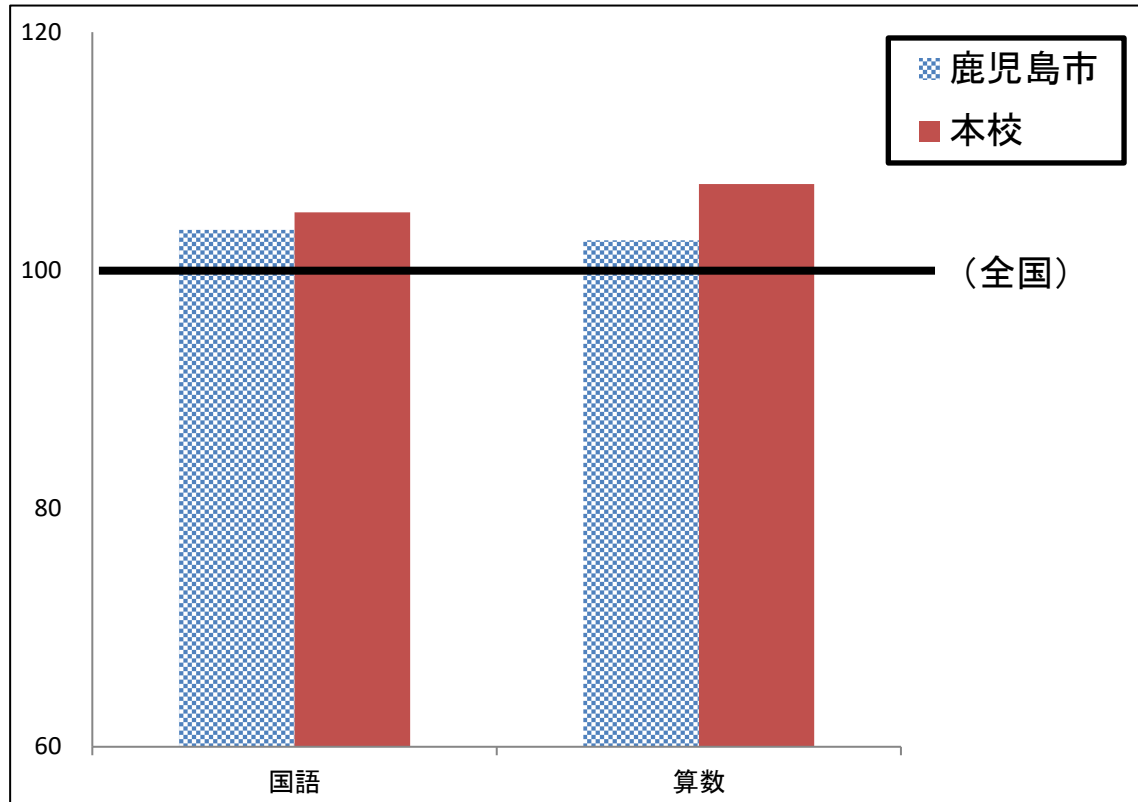


令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

荒田小学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において、極端に落ち込んでいる領域はなく、全国より高い傾向にあります。

「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題において、課題が見られました。

文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを確認したりできるようにするための指導に取り組んでまいります。そのために、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合う場面や書き表し方の工夫について話し合う場面を設定していきます。

〈算数〉

平均正答率については、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」、すべての領域で全国より高い傾向にあります。

その中でも、「変化と関係」の領域に課題が見られ、特に「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題においては、正答率が低い結果でした。

二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにすることが大切であり、日頃の授業から数学的な見方・考え方を働かせるための「何を?」「(事実)」「どのように?」「(方法)」「なぜ?」「(理由)」の声掛けをしてまいります。そして、児童が自分の言葉で表現できる活動を充実させていくようにします。

〈全体的に〉

児童質問紙の結果から、「〇〇の勉強は好きですか」の質問に対して、算数の数値が国語と比較して低かったことから、今後、個に応じた指導や少人数指導など指導方法の改善に努めてまいります。

また、「普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしたりしていますか」という問いに、50%以上の児童が1時間以上使用していると回答しています。

長時間に渡ってSNSや動画視聴をすることによって、学習時間や睡眠時間、体を動かす時間が減る可能性が高くなり、過度の使用による健康影響も問題となっています。基本的な生活習慣の確立(早寝・早起き・早登校)については、学校全体で言葉掛けを繰り返し行ってまいります。御家庭でもメディアの時間等、家庭内のルールを御確認くださいようお願いいたします。